

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホームかしま

(ユニット名) _____

記入者(管理者)
氏名

沖津由美子

評価完了日

平成21年1月31日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>社会福祉法人養生会職員としての基本理念を念頭に、地域密着型サービスとしてのグループホームかしまの理念である、職員は地域住民である利用者自身の自覚の支援と地域の理解の啓蒙に努めることで絆を深め、その人らしい社会生活の継続を支援していく使命を担っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日常において職員全員で趣旨を理解し、地域の一員としての行事参加の際や日々のかかわりにおいて、社会福祉法人の公共性、グループホームの役割りを実行し、利用者が自然体で地域住民として暮らし、円滑に関わっていけるように支援を行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には、面会時、ホームだより、招待状、電話などで、地域の行事紹介や、一緒に参加する機会を設定し、利用者が暮らしを楽しむ継続するための理解と協力を得ている。地域の方たちとのふれあいの機会を実現するため、民生委員の方や近隣地区のボランティアの方たちのはからいも大切に、一緒に行事に参加したり気軽に遊びに来て頂いたりし交流の中から理解を得ている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩、買い物など日々の暮らしの中での接点を大切にし、挨拶や会話を通じて親睦を深め、情報の収集を行なう等お付き合いを大事にし実行している。近隣地区のボランティアの方たちを通じてのお付き合いを広め何時でも気軽に立ち寄って頂き易い雰囲気作りに努めている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>花見、鎮守様の春祭り(子供みこし見学)、夏祭り(福祉祭り)、保育所の運動会招待、小学生のジュニア福祉スクール、芋ほり、いも煮会、地域住民と子供たちによる餅つき大会などへ積極的に参加し、地域との交流を推し進めている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>母体（社会福祉法人）の社会・地域における福祉 の発展・充実という使命感を常に念頭に置きなが ら、管理者は地域で開催されるネットワークの会 参加や、地区の民生委員との交流の中で情報交換 を行い、介護予防のための認知症ケアの知識の啓 発を行っている。また広範囲での研修・実習も受 け入れ、突然の来訪者の相談もその都度応じてい る。</p>		
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的を全職員で理解し自己評価 をすることにより、現状に甘んじることなくよりよい サービスの質の向上を目指している。方法としては、 ミーティングでの申し送りや報告による話し合いを元 に問題点を探り、出来る限りの早急な改善に向けて、 具体策を練り実践につなげている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度開催の運営推進会議は、事業所から の現況報告を中心に、検討事項、懸案事項につい ての意見や情報の収集また、評価結果を踏まえた 取り組みによる成果なども報告し、夫々の委員に よる率直な意見を頂き、業務に反映している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	<p>管理者は会議の開催案内や議事録を、毎回直接役 所に持参することで、面会や会話の機会を多く持 ち、情報の収集や知識の習得に努めている。ま た、市の相談員を通じて相談事項も共有し意見 を頂くなど積極的な交流を図っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>引き続き、現状の必要性は有無として、管理者だ けでなく、職員全員が漠然とした知識ではなく しっかりと学ぶ機会が必要と感じている。</p>		<p>年間計画の業務研修に組み入れ、管理者が職員に 講義していくなど啓蒙して行きたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングの折に、あるいは業務研修時に、高 齢者虐待防止関連法について全職員が理解し浸 透・遵守がなされるように話し合い実行してい る。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際はケアに関する考え方、実際の取り組みなどを出来る限り丁寧にわかりやすく説明している。利用者の状態変化によるやむをえない契約解除に至る場合なども、本人・家族と話し合い納得の上に於いて行なっている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市から介護相談員を派遣して頂く事や、ほぼ毎日来訪するボランティアの方たちとのかわりにより、自由な意見交換の場が設定され、意見や相談の吸い上げを自然体で行なうことが出来、利用者の立場での意見として運営の参考としている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時はもとより、月に1度の会報で、日々の出来事や行事参加等の報告、「気づき」、「防災の取り組み」、職員に関する事項などを織り交ぜ報告している。また、個々の体調の変化や相談事項などは、速やかに電話にて行い、来訪時には必ず声を掛けるなど積極的にかかわりを持ち、安心して頂ける配慮を行なっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には来訪時または食事会などを中心とした年6回程度の集まりの機会に、どんな些細なことでも話していただける雰囲気や場を提供できるように常に心がけ、また家族同士の関わり合いや、意見の交換の場が積極的に行なわれるように配慮し、そのことを日々の生活やケアに反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミーティング、月1回の業務研修、自己評価を踏まえた個別面談などで積極的な意見を尊重し、コミュニケーションを密にすることで垣根をなくし全員参加で運営を円滑にするべく努力している</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者が24時間、365日、不自由を感じることなく馴染みの暮らしを継続していけるよう、日中・夜間共に無理なく状態に沿ったローテーションで対応している。また、その都度必要に応じた人数を確保することで柔軟な職員配置も可能な体制をシフトしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者、家族が馴染みの間柄でスタッフに信頼を寄せることが出来るような対応を1番に心がけており、法人内のやむをえない異動、離職などには時期・引継ぎに最大限の配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	業務研修の年間計画を立てる中で、法人全体で外部講師から学ぶ機会を設け、自己研鑽の機会を得ている。また、事業所外で開催される研修には、出来る限り多くの職員が受講できるようにし研修報告はミーティング時に報告してもらい、報告書は全員で閲覧し確認し合っている。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	福島県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に所属し、特に地元で開催されるスタッフ研修会では学習の機会や知識の習得、意見の交換など交流を深めている。また他施設の職員との合同の演習では、共に学ぶ楽しみや、取り組みの確認などで質の向上を目指している。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員相互の親睦と共に支えあうという意識の高さを常に啓蒙している。日常的にまたは面談時など気軽に話せる雰囲気や場を設け、職員の間関係の把握もしながら尾を引かないストレス回避が出来るよう努めている。法人には安全衛生管理委員会がありアンケートによるストレス撃退法の紹介や産業医による心身の相談も可能な体制になっている。	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	年間を通して、たびたび運営者も現場を訪れ利用者や職員と過ごしたり行事などの機会があるたびに声を掛けるなどホームの状況を把握している。また、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を実施し業務に反映されている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員は生活を共にし自然体で支え合うという関係を大事にし接している。年下の世代である職員が年長者である利用者に出ることに、そして年長者の利用者が職員に伝授出来ることなどを様々な場面や過去のエピソードを通してさりげなく設定しながら、生き甲斐をもって穏やかにゆったりと生活できるよう心がけ実行している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の面会や行事参加の機会には、利用者と共に過ごす時間を共有しながら、家族の思いや日々の暮らしでの職員の気づきなどを情報交換している。そして本人と一緒に支えているという協力関係を確かめ合いながら支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人に対する思い、本人の家族への思いを受け止め伝えながら、より良い関係の継続または、修復に向けて支援している。たとえば、行事参加の依頼をし、参加して一緒に楽しんで頂くなど足を向けやすい状況を設定し、働きかけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの人間関係や社会性の維持継続のためにも子・兄弟・親戚・知人など何時でも来訪したり、外出し易い雰囲気作りに努めている。同敷地内の病院や施設へのお見舞いやなじみの美容院の継続利用などの支援もそのひとつである。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	世代(年齢)の相違、生きてきた環境の違いなどを根気強く調整しながら、時には年長者で世話好きの人に説得力を発揮して頂いたり力関係や個性を活かし対処している。利用者同士が共に支え合い、ある場面では助け合う心を育みお互いのよさを認め合う温かい雰囲気作りを行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスを終了された方や家族にも、気軽に立ち寄って頂いたり相談ごとにも応じるなど側面から継続的に支え、利用中に培った関係を大切にすることを心がけ実行している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしにおいて、本人の発する少しの言葉や表情を見逃さずキャッチし真意や希望を把握している。また中々汲み取りにくい方にはご家族を中心に関係者からの情報を参考にし本人本意の暮らしの実現が出来るように努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>プライバシーへの配慮を念頭に、面会の際の家族への聞き取りや、利用者と家族との会話の中からヒントを探り、現在の生活に活かせるように努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>その人の永年の生活習慣や歴史を参考にしながら、一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、現在の心身の状態や可能な限りの力を確かめながら全体像を捉えている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の日頃の関わりの中、思いや意見を伺いまた汲み取ることでアセスメントやモニタリングに活かし、ミーティングを中心にして職員全員で様々な視点からの意見やアイデアを出し合い、介護計画に活かしている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の遂行状況・効果の評価と共に、職員がリアルタイムで記録する日々の状況を参考にし、状態変化や本人・家族の新たな要望も組み入れながら、状況に即した見直しを行っている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録様式に工夫を施し、食事・水分・排泄などの身体状況、利用者同士、家族、職員、関係者との関わり、本人の発した言葉などを逐一記録している。この用紙にはケアプランを登載しつつねに心身の状況を把握しながらも計画に沿ったケアを全職員が遂行できるよう、また新たな「気づき」も生まれるよう目を通し確認しながら連続性のある実践・見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>利用者の方が地域住民の一人として安心して地域と交わり暮らしを継続していけるように地域資源の活用を行っている。具体的には、地域の方のボランティアの継続的受け入れ、民生委員との情報交換、母体との合同の地域行事参加、近隣小学校・保育所との交流などである。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域で展開している、居宅介護支援事業所のケアマネジャーや福祉施設のケアマネジャー、デイサービス事業者との情報交換や話し合いを密にすることで、本人を理解する人達からの意見も参考にしながら多方面から支える努力をしている。デイサービスにおける音楽療法士による音楽療法参加や施設慰問の招待などは散歩による外出の機会も得、楽しみの一つになっている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議を通して地域包括支援センターとの繋がりも密になっている。地域の情報や支援に関する夫々の情報交換をしながら、利用者の方の意向または必要時は協力体制が取れる関係となっている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム協力医の他、入居前からのかかりつけ医の受診も出来るよう、本人・家族の希望や必要に応じ、協力も得ながら通院介助を行うなど、柔軟な姿勢で本人との関係を大切に支援している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医は永年地域での医療に携わり、認知症の医療にも精通しており、日常の利用者の姿を通してあるいは家族・職員の話をよく聞き取りながら、適切な指示・助言をしてくれており、信頼関係を築きながら支援を行っている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院による弊害を防ぐためにも、入院時は家族と共に担当医・看護師・MSWとの話し合い、情報提供などを行い、入院期間は職員が毎日見舞うことで、本人の状態観察・確認を徹底している。そして本人・家族の安心も得ながら、短期的かつスムーズに回復・退院に向けての連携支援を行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期については本人の状態変化にすばやく対応し、家族・協力医・看護師・管理者がその都度話し合いを持ち、対応方針を軸に本人・家族の思いを優先しながら支援に繋げている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人・家族の気持ちや要望を大切にしながら、本人にとって最良の方法をとるべく協力医・家族・ホームとの話し合いを重ね、利用者が安心して終末期を過ごせるよう取り組んでいる。緊急時の対応は医療機関との連携を密にし円滑な対応を行っている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の場所に移られた際にはケアプラン・支援状況などを中心に情報提供を行い、今後の支援方法等の話し合いに協力し、移った後も職員が訪問し状態観察に努めるなど本人の環境の変化に対するダメージを最小限にするため、ホームとして出来る限りの支援を行っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティングや業務研修の折に職員としてあるべき姿・対応を周知徹底し確認することを怠らず、人生の先達としての利用者一人ひとりの誇り・プライバシーを大切にした支援を行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の関わりの中で、利用者本人が希望や考えを自由に述べたり物事を選択し決定したり、本人の表情から汲み取ったり出来る場を数多く設定し、自然体で受け入れることで納得の行く暮らしの実現が図れるように支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活の基本である1日の流れを目安に、それに固執することなく、一人ひとりの心身の状態を優先しその日・その時の本人の気持ちを大切に、希望がかなうように支援している。</p>		
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>職員は一人ひとりの生活習慣や好みを共通に認識し、身繕いなど本人の意向が充分に発揮できるようにお膳立てしながら不十分な所はさりげなく直したりし、自己決定を尊重している。行事や外出の際はお化粧品やおしゃれを勧め、また行きつけの美容院の送迎など望みの継続を支援している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の際は、季節の食材の紹介、思い出など「食」にまつわる話題を提供し、会話の引き出しをすることで、好みや献立のヒントを探り、利用者・職員が一体となって食事の楽しみを工夫している。自前の畑で取れた野菜や、生みたて卵などの素材を一緒に下ごしらえしたり、保存食作りに加わって頂き、調理したものを揃って頂くことで満足感や達成感を得、片付けに至るまでの活動を自然体で行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつに関して、散歩を兼ねた外出の際に購入したものの個人的な差し入れは、制限のある人や危険な人への配慮も必要なため、納得して頂き場合によっては預かるようにし、小分けにしながら職員見守りの中で楽しんで頂くなど、本人の希望と周りへの気配りもしながら支援している。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄チェック表を使用、時間帯・習慣・排泄感覚を把握し、さりげなくトイレへの声がけ・誘導・介助を行い、失禁を防ぎ、パットの使用軽減を図っている。失敗時はすばやい状況判断で本人を傷つけない配慮も充分行っている。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの、その日その時の希望・タイミングに合わせて柔軟な態度で確認と配慮をしている。仲の良い方同士の入浴、好みの適温への配慮、拒否の方への時間帯や人の使い分けなど、入浴は心地よいものと理解して頂く支援を行っている。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中、無理のない活動を促進することで生活のリズムを作り安眠に繋げるように努めている。一人ひとりの置かれている心身の状態・希望や表情・習慣に応じて、またその日の疲労度も配慮しながら個別の休息を取り入れ負担のない様に支援している。夜間安眠できない方には、温かい飲み物の提供や会話、スキンシップで不安感を取り除く工夫も行っている。</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>得意だったことや好きな分野で、一人ひとりの力を発揮して頂けるよう、たとえば調理の下ごしらえ、縫い物、洗濯たたみ、鶏の餌作り、絵本の朗読など日常的に場面を設定し、感謝の気持ちと言葉で対応している。行事参加や、遠出の外出などの楽しみ事も皆で相談しながら決定し、希望に沿った無理のない計画で実行している。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>本人の希望と安心感から家族の了承も得て小額の現金を手元に持っている利用者もいる。外出や買い物の際、手持ちのお金を自分で支払いたい利用者には、支払った後のレシートや領収書は大切なものであることを説明し保管して頂いている。く。また個別の記録に記入し、家族への説明や全職員が確認できるようにするなどの工夫も行っている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>季節・天候・その日の体調や希望に応じて心身の活性が図れるように、無理のない距離での散歩・買い物・行事参加またはドライブなどの外出支援を行っている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>近隣で新装オープンした家具店見学・大型書店・100円ショップ・視聴覚室での視聴・回転寿司での食事など地の利を活かして外出の機会を設け、社会見聞を広める機会や社会参加の促進を支援している。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>遠方の家族に電話をしたりかかってきた電話の会話を楽しみにしている利用者にはプライバシーに配慮し、居室にて子機での会話や取次ぎなどに配慮し、本人の不安感や孤独感の解消に役立てている。遠方の家族からの便りは、了解があれば職員が代読し、思いを自分の専用ノートに書き止めて頂くなど記憶の維持に役立つ支援をしている。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>職員は家族・親戚・知人が気軽に訪れることが出来るような雰囲気作りに努めている。訪問時間は設定されていても事情に応じて柔軟な対応となっている。面会の際は自室・個室・フロア内の個別コーナーと自由に使用出来、お茶、コーヒーなどのサービスも出来るだけ行い面会を楽しむことが出来る工夫をしている。また希望に応じ宿泊も出来る配慮をしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日々のミーティングや申し送り・業務研修時には、ケアの振り返りをしながら職員間で共通認識がなされているかを確認し合い、身体拘束のない暮らしを実践している。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は一人ひとりの状態や傾向を周知しており、またその日その時の本人の思いをすばやくキャッチし、職員間の連携の下見守り・声がけを行い、場合によっては一緒に行動するなど、安全で自由な暮らしを支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じフロアで作業を行っており、また全員の動きを把握しやすい位置に家具等も配置し、さりげない観察や所在確認をし、事務作業を行う場合は利用者の目に触れない記録の保管などプライバシーに気を配っている。夜間も同様に所在を常に確認できる位置に待機し異常事態にも即対応できる体制で安全面に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの状況把握で、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、使用するとき注意や見守りが必要なものと区別し、管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため普段から一人ひとりのリスクについて話し合い、職員間の共通認識を図っている。また、日々におけるヒヤリハット記録は職員全員が閲覧確認し、万が一事故に発展してしまった場合は家族への説明・報告を速やかに行い、事故報告書を作成し、事故原因の究明、今後の対策について話し合い再発防止につなげている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	所轄の消防署、グループホーム協議会、母体法人の協力を得て、救急手当や蘇生術、AED使用法の研修を実施し、演習するなどすべての職員が緊急時対応について知識・資格を習得している。また作成してあるマニュアルは職員全員が周知徹底し取り組んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設法人合同の消防訓練・その他の災害対策に向けての訓練や防災委員会に参加し、また月1回はホームでの訓練と利用者への啓蒙を行っている。また地域のボランティアの方や、近隣の方にも理解を頂き、何時でもスムーズに避難できるように協力体制を密にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全を優先しながら、一人ひとりの持てる力の発揮や願望などを全職員が理解し自然な暮らし方を支援することで、その人が生き生きと暮らしていることを普段の生活から納得して頂き、リスクについてもその都度説明をしながら理解と協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は一人ひとりの一般状態を把握しており様子の変化を朝のバイタルチェック・排泄チェック・入浴清拭時のボディチェックに加え、午後3時にもバイタルチェックを行うことで、夕方以降のハイリスクを見過ごさず、普段の状態と少しでも違う症状が現れた場合は直ちに管理者に報告し、医療機関受診などの早期対応に繋げている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを整備し、内容の把握・変更などの確認をスムーズに出来るようにし、変更時の記録など職員間・医療機関との連携を図れるようにしている。また服薬時は一人ひとり手渡し、毎回全員の服薬確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は快便が利用者の心身に何よりも落ち着きと心地よさをもたらすことを理解し、排便の有無がすべての対策と予防に大きなウエイトを占めると考えている。適度な運動・食材と献立の関係・乳製品の摂取・腹部マッサージなどの効果も取り入れながら、一人ひとりの習慣や原因も考慮し自然排便が可能になるように取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけ誘導を行い見守りや介助の支援も一人ひとりの持てる力に応じて行っている。就寝前の入れ歯の管理や手入れも習慣や移りをふまえて無理のないように支援している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表にて行っている。食事やお茶の勧め方を工夫し美味しく頂けるように、嗜好や習慣も配慮しながら状態の記録と併せて観察し把握・確認している。毎月また必要に応じて個別に体重の測定を行い健康管理に役立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、母体との連携で感染症対策委員会を設けマニュアルを作成し、業務研修にて医師・管理者・看護師を中心に勉強会を実施している。また時期的、地域的な感染症のリスクには、公的機関の文書は常に回覧し話し合いを持つなど情報の収集を怠らず、早期発見早期対応に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・まな板・布きん・包丁の消毒はその都度実施し、調理室・冷蔵庫内の清潔保持、職員・利用者の手洗いの徹底など毎日チェックを行い記録保管し安全衛生管理に努めている。食材は、無農薬の自家栽培や地元農家直送の新鮮野菜を使用し、食材を毎日在庫管理することで買い物に役立て、新鮮で安全な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は道路から比較的奥まっっており、駐車スペースや往来のための砂利が敷いてあるが、広い敷地のため部分的に花壇、畑、鶏小屋が配置され生活を楽しむための有効活用がなされている。玄関周りはポーチを広く取り、そこには近隣の方の協力で四季折々の観賞用鉢植えが常時披露され、ベンチを配置し、家族・近隣の方・ボランティアの方も訪れ会話やレク活動にも盛んに利用されている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の中心位置であるフロアはゆったりとしていて、利用者が何時でも自由に安心して自室やプライベートな場所に往来出来、音や光にも配慮がなされている。壁面のレイアウトや観葉植物の配置などは利用者と相談しながら行っている。フロアに続く調理室は広く、利用者・職員の協働作業、年間を通しての各種行事や自慢料理の披露など家族やボランティアの方も加わり、食を通して五感での季節や時の移ろいを感じて頂く工夫もしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア奥にリビングチェア・リクライニングチェア・テーブル・戸棚・自由に使えるお茶道具などを配置し、観葉植物やついたてを効果的に使用、コーナーを設けることで気の合った仲間との語らいが出来る工夫をしている。また玄関に続くスペースを利用したコーナーや風除室も独りの時間を過ごしたい時に役立っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は、一人ひとりの個性を尊重した馴染みの物、その方にとっての必需品などが持ち込まれている。仏壇・位牌・写真・長年愛用している小物の引き続きの利用など本人・家族と相談し配置を工夫しながら使用して頂いている。個室ごとの暖簾の使用は、自室を確認し愛着を持つための役に立っている。	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	空気の入れ替えや温度調節には全職員が常に注意を払い、利用者の様子や、室温計も参考にしながら外気との温度差を調節している。トイレには換気扇や手の届かない位置に消臭剤を設置するなどにおい対策と、悪臭源のこまめな点検・処理で悪臭のない工夫をしている。	
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	調理室のシンクや調理台の高さは背の低い方や車椅子での作業も容易な高さに設定されているなど、生活環境のほぼすべてにおいて利用者の安全と自立を意識した工夫がなされている。	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	一人ひとりの行動や力の度合いを職員が把握することで、その人の出来ることと出来ないことの見分けが容易になり、混乱や失敗を未然に防いだりカバーしたりすることで、住みやすい環境を提供し、出来るだけ自立した生活を送っていただく工夫をしている。	
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	玄関周りスペースに設置したベンチを活用し、思い思いに景色を眺めたり、往来の人達や子供たちの元気な姿や声に触れたりし外気浴を楽しんでいる。また野菜の収穫・プランターへの花植え・レクリエーションに興じるなど活動の場を広げる工夫をしている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いわき市の中心部に位置し商業発展地域でもある鹿島町において、農家・新興住宅・保育所・小学校など自然・社会環境にも恵まれ、地域で25年余りの歴史を持つ社会福祉法人養生会を母体に平成15年開設されました。

隣接している病院との繋がりも深く医療面での安心感や、併設敷地内の同法人特養との協力体制も密であり、医療介護の充実が図られていることも特色の一つです。

法人理念とグループホームかしまとしての理念を礎に、職員は利用者一人ひとりのこれまでの生活歴を尊重し大切にしながら、「かしま」での生活がその方にとって地域住民として自然にとけ込むことが容易になるよう、様々な機会を設定することでその方が自覚を持ち、一市民として健康的な生活が送れるように支援しています。また恵まれた環境を生かしての地域との交流も盛んで、地域のボランティアの方達を中心に理解・支援体制も整っています。

家族との交流も盛んで、地区の行事参加やホーム独自の招待会では利用者・家族・職員一体となって手作りの料理やおもてなしの準備・実施など楽しんでいます。家族・親戚・友人・地域の方・ボランティアなど、いつでも気軽に立ち寄り利用者の方達にもなじみの関係を築いていけるように、家庭的な雰囲気をも motto に交流の支援・継続を行っています。

園庭で収穫した野菜の下ごしらえ・保存食作り・縫い物など個々の経験や生活習慣の中から、得意な分野での力を発揮出来るように場面の設定にも気配りし、役割や楽しみごとなど生活に張りの出る支援を継続しています。